

市町村との意見交換会の概要

■日	時	令和6年7月18日（木）15:15～16:45
■場	所	大阪府立国際会議場 3階 イベントホールB
■出	席 者	出席者名簿のとおり
■内	容	1 関西広域連合の取組報告 (1)大阪・関西万博に係る関西広域連合の取組について (2)いのち育む“水”のつながりプロジェクトについて 2 意見交換 ・大阪・関西万博の開催を契機とした広域周遊観光の促進について ・その他

【質疑・意見交換における主な発言概要】

○市町村長からの意見 ◆広域連合からの意見

1 関西広域連合の取組報告

関西広域連合本部事務局から、下記（１）及び（２）について説明

- （１）大阪・関西万博に係る関西広域連合の取組について
- （２）いのち育む“水”のつながりプロジェクトについて

2 意見交換

「大阪・関西万博の開催を契機とした広域周遊観光の促進」等について以下のとおり意見交換

○ 鴨田 京都府舞鶴市長

- ・ 来年の大阪・関西万博は、舞鶴市を初め京都府北部地域にも新たな人流を呼び込む絶好の機会と捉えている。
- ・ 舞鶴市では、多くの近代化遺産を保存・活用する取組を全国に先駆けて実施しており、近代化遺産などを巡るモニターツアーを実施することで、新たな旅行商品の造成につなげたいと考えている。
- ・ 舞鶴市は、重要拠点港である京都舞鶴港におけるフェリー航路の拡大やクルーズ船の誘致にも取り組んでおり、今後は韓国船社等を対象としたモニターツアーを実施し、万博と海の京都エリアを一体的に楽しめるツアーの造成につなげたいと考えている。
- ・ 引き続き、京都府や海の京都DMO、京都府北部の各市町、そして福井県嶺南地域とも連携しながら、質の高い魅力的な観光周遊モデルコースの構築により、交流人口の拡大、地域経済の活性化に向け積極的に取り組む所存であるので、関西広域連合においても、関西広域での質の高い魅力的な観光周遊モデルコースの構築について取り組んでいただきたい。

○ 山本 大阪府泉南市長

- ・ 大阪・関西万博の終了後も、万博をレガシーとして将来にわたり地域活性化に役立てるためには、関西広域連合によるスケールメリットを存分に活かし、広域周遊観光を促進させなければならないと考えている。
- ・ 関西は日本有数の観光地を複数擁していることから、それらの波及効果を隅々まで行き渡らせる仕掛けを講じる必要があると考えており、今年度の関西広域

連合予算にも計上されているが、有形無形の支援を引き続きお願いしたい。

- ・ 泉南市は関西国際空港を有しており、関西のゲートウェイである関西国際空港、泉州地域をフックとして広域的に取り組むことが必要だと考えている。関西国際空港の発着回数増について、泉州の自治体もこの方向性には賛同しており、今後取組を進めていく上で、広域的な取組にあたっては、橋渡し等様々な御支援をお願いしたい。
- ・ 地域資源やコンテンツに関しては、その切り口によっては親和性が高まり、連携による相乗効果が見込まれる場合もあることから、域内自治体の基礎的な観光情報データ公開の場を設定すれば、連携の可能性は今まで以上に高まると考える。さらに進んで、自治体同士のマッチング支援なども期待したい。
- ・ 関西広域連合においても、大観光地における広域プロモーションや自治体観光情報の共有を通じた連携について検討いただきたい。取組の実効性を高めるためには、多くの観光客が利用する場所を抽出し、プロモーションを実施する必要があることから、そういった場所に関連する民間事業者との連携強化や橋渡しについて、関西広域連合のお力添えをいただきたい。

○ 神出 和歌山県海南市長

- ・ 海南市は万博首長連合のメンバーであり、本年10月には大阪・関西万博推進事業に関連する当市への帆船寄港イベントに併せて、お菓子まつりを同時開催する。万博の機運醸成を図るとともに、みかん、橘、お菓子の発祥の地、そして紀伊国屋文左衛門船出の地としてのPRを行う。
- ・ 万博は、国内はもとより世界から多くの来場者が予想され、地域の魅力を発信する絶好の機会である。特に、最近のインバウンドの傾向は、有名観光地だけでなくSNS等で注目される地域の観光スポットの需要も高まっているため、関西広域連合においては、地域の隠れた魅力を掘り起こし、効果的に発信するプロモーション活動について、強力に進めていただきたい。

○ 仲田 兵庫県三木市長

- ・ 三木市は、防災のほか日本最古の金物のまち、酒米の原料である山田錦の生産地、ゴルフ振興にも力を入れているまちであるが、それぞれ地域にある資源を活かしたツアーを造成することが必要ではないかと考える。
- ・ ツアー造成に関して、三木市ではインバウンド向けにゴルフを核として金物体験・農業体験をしていただくツアーを造成しており、現在、三木市が中心になって近畿経済産業局や兵庫県とも連携しながら進めているところ。
- ・ 関西広域連合においては、ツアー造成について色々なかたちで御協力いただきたい。関西観光本部等でも情報発信されているが、兵庫県とか三木市という話ではなく、関西広域連合の域内に来ていただけるようなPRを一緒になって実施してほしい。
- ・ 三木市は神戸市に北接しており、阪神・淡路大震災を経験したまちということで、兵庫県広域防災センターや、国関係の施設としてE-ディフェンス、昨年にはE-アイソレーションを県立防災公園に設置いただいている。
- ・ 私も、兵庫県議会議員・関西広域連合議会議員であった際、兵庫県議会・関西広域連合議会において防災庁の設置や防災関係機関の誘致についてお話したことがあり、当時、関西広域連合と兵庫県、全国知事会が連携してこのことについて国への提案が行われた。

- ・ 関西広域連合においても、阪神・淡路大震災から30年ということで関西広域連合の特色を出す意味でも、首都直下地震発生時の首都機能バックアップの観点等から、防災庁の兵庫県内設置等に引き続き御尽力いただきたい。

○ 小紫 奈良県生駒市長

- ・ 各市町村がおっしゃった広域周遊観光をぜひ関西広域連合の力をいただきながら進めていただきたい。
- ・ 生駒市は茶筌の全国シェアの9割以上を誇るお茶のまちだが、埼玉の狭山茶と一緒に茶の展示をすることがある。関西には、和東茶や宇治茶、堺の千利休をはじめ、歴史・お茶・茶道の歴史があるので、お茶をテーマにした体験型かつ関西全域の商品パッケージが作成できないものか、提案させていただきたい。千利休の町、堺に行って自分で摘んだお茶と自作の茶筌でお手前を体験してみることが、一つ完結したお茶をテーマにした周遊観光で、面白そうだと考える。
- ・ 生駒は隠れた夜景の名所で、生駒山からは大阪平野を一望でき非常に美しい夜景が楽しめるが、他にも関西には数多くの夜景スポットがあり、加えて工業地帯のツアーも今人気なので、夜景の名所をまとめた広域的なツアーを組成したり、関西広域連合の力をいただいて夜景の有名な自治体の集まりによるプレゼン合戦を実施するようなことができないか。
- ・ 今申し上げた事に関連して、多言語に対応したプロモーション動画を関西広域連合の全域で制作すれば、万博後も様々な形で使えるだろうと考える。

◆ 三日月 広域連合長

- ・ 先ほど事務局から関西パビリオンの紹介をさせていただいたが、WEBパビリオンについては既に今年4月から公開しており、関西パビリオンの情報に加えて、順次、コンテンツを充実させながら関西各地にいざなうゲートウェイとしての機能を果たしていきたいと考える。また、観光スポットやコンテンツの情報だけでなく、アクセス情報やルートの検索にも対応するようにしていく。
- ・ 旅先で使うのはスマホであることが多いので、先月からはスマホ用の関西観光情報Webアプリも公開し、情報提供を充実させていこうとしているところ。
- ・ 先ほど市町村長の皆様がお話しされていた観光情報やコンテンツ等についても、色々つながりが作れると思うので、WEBパビリオンについてはさらに充実させていきたい。

◆ 西脇 副広域連合長

- ・ 観光と文化はまさに表裏一体で、世界に誇るような文化財から地域に眠っているような文化資源まで、磨き上げや掘り起こしをしっかりと行って、多くの人に日本の精神性や文化の奥深さを直接体感していただくことによって、地域資源の付加価値を高める好循環が生まれ、地域の活性化や文化の継承・発展につながるものと考えている。
- ・ 文化庁が関西に移転して以降、文化庁が現場と非常に近くなったことで、文化庁職員と京都府内の市町村長との意見交換や、近隣府県の若手職員との意見交換が活発に行われている。また、昨日の祇園祭の山鉾巡行では、文化庁職員が参列され、長官も先頭を歩かれるなど、東京にあっては恐らく考えられなかったような地域に根差した文化の理解が進んでおり、先ほど言った観光とのつながりも非常に大きくなると考えている。

- ・ 昨年7月には、都倉長官にも出席いただき、官民一体となった文化芸術分野の取組について、文化庁、関経連とともに共同宣言を行った。昨年秋には、文化庁から関経連等に対し、日本文化の世界への発信や地域活性化の観点、ビジネスの観点から非常に意欲的な提案がなされたところ。
- ・ 大阪・関西万博に向けた機運醸成や関西の文化力の向上、そして関西各地の活性化を図るため、8月から文化発信イベントである「KANSAI感祭」の実施に向けて準備しており、先ほどの関経連との意見交換会後に、そのPRも兼ねてフォトセッションを行った。大阪・関西万博に向けて文化のイベントもやっていきたいと考えるので、ぜひ皆さんにも御協力をお願いしたい。
- ・ 小紫市長（生駒市）はプロモーション素材の制作について御関心があり、仲田市長（三木市）からは体験型広域連携ツアーについて御意見をいただいたが、プロモーション素材の制作は、観光誘客を進める上ではスタート時点で最も重要な行為だと考える。
- ・ 昨年3月に大阪・関西万博に向け、関西広域連合構成府県市と関経連、民間企業とともに「EXPO2025関西観光推進協議会」を立ち上げ、万博来場者の関西各地への周遊促進に取り組んでいる。この協議会では、各構成府県市がPRしたい観光プロモーション素材や観光コンテンツを既に500件以上収集・整理しており、今年度も充実をはかっていく。
- ・ これらの観光コンテンツを旅行会社との商談会でPRすることにより、関西各地にある観光素材を線で結び、モデルコースや体験型観光ツアーの造成を促進してまいりたい。
- ・ 昔、各府県や市町村の観光協会は「相手に手のうちを見せたくない」と言わないまでもライバル関係であったように思う。ただ、旅行者としては、せっかく来るのであればいろいろなところを見たいし、行政の境界にもあまり意識がないと思うので、引き続き広域的な取組を頑張っていきたい。
- ・ 山本市長（泉南市）や神出市長（海南市）、鴨田市長（舞鶴市）からは、広域周遊観光を促すプロモーションの重要性について御意見をいただいた。
- ・ 関西各地には、本当に魅力的な地域資源が豊富にあるので、これを発信して関西各地の周遊を促していくことが極めて重要だと考えている。
- ・ 関西広域連合では、広域連携DMOである関西観光本部と連携し、京阪神・堺・奈良をコアエリアとして、各地域を共通のテーマやストーリーでつなぐ8つの広域周遊観光ルートを造成し、「THE EXCITING KANSAI」という統一ブランドで発信することで、広域観光圏としての関西プロモーションに取り組んでいる。
- ・ これは本当に大きなストーリーやテーマでつなぐ広域ルートであるので、特にインバウンド向けには非常に重要だと考えている。
- ・ 小紫市長（生駒市）からテーマ性を持った周遊ルートについて御意見があったが、茶筌や夜景のツーリズム、特にナイトツーリズムは非常に良いと思っている。
- ・ テーマ別観光については、やはり広域周遊の効果が高い。最近は外国人観光客にアニメが人気で、アニメ作品の舞台巡りをする方がいる。自治体は遅れているかもしれないが、旅行会社等はこれらのPRや情報収集を進めている場合もあるようで、こちら意識していきたい。
- ・ 関西広域連合では、「城」をテーマにしたテーマ別観光や、世界的な日本酒、

酒ブームを背景として、「酒」をテーマに、例えば酒蔵ツーリズムなども推進しているところである。テーマ別観光は、大きなものからある程度小さなテーマまであり、お茶も十分そのテーマになり得ると思っている。

- ・ 山本市長（泉南市）から、広域プロモーションや自治体観光情報の共有を通じた連携について御意見をいただいた。
- ・ 関西各府県で連携したプロモーションについては、台湾で開催した台湾大商談会において、関西広域連合の構成府県市の観光担当者が参加し、一体となって情報発信や台湾の現地旅行社への販路拡大を一遍にやり、非常に効果があった。
- ・ 昨年度は広域連合としてタイに私が団長で、韓国には三日月連合長が団長としてトッププロモーションを実施した。このプロモーションには府県市や万博協会、関西エアポートなど多くの人が参加しており、関西エリアの情報が一度に収集できることから非常に好評だったため、今後も関西広域連合という枠組みを使い、関西広域への誘客を促進していきたいと考える。
- ・ 自治体観光情報の共有を通して連携することは良いが、まだまだ取組が進んでおらず、認知されていないことも多い。先ほど関経連との意見交換会の中で、角副会長が担当されている「KANSAI Ma a S」という鉄道の交通情報について、観光情報の掲載依頼が関西広域連合にあった。
- ・ コンテンツの磨き上げや制作も必要であるが、情報をどのように共有するかについては、兵庫県、福井県、三重県が「御食国」として京都の食文化を支えてきたことから、京都府も参画して和食PRの取組を行っている。
- ・ 楠木正成をテーマにした大河ドラマの誘致については、2025年は実現しなかったが、まだ息の長い取組になると思うので、自治体の協力もいろいろやっていく必要があると思っている。
- ・ 現在、第2期の広域観光・文化振興計画の見直しを進めているが、これらの視点も新計画に入れていきたいと考えている。
- ・ 来年の万博は関西の観光振興には絶好の機会であり、取組に際しても力を結集させやすい。まずは万博での成功を目指し、その上でそこで培ったノウハウを、そのさらに先に活かしていきたいと思っている。引き続き、皆様のお力添えをよろしくお願いしたい。

◆ 池田 兵庫県防災監

- ・ 能登半島地震について、関西広域連合として被災自治体に対するカウンターパート方式による支援を決定し、支援を実施してきたところ。現在は技術職員主体の中長期派遣を中心とする支援に切り替えており、引き続き、息の長い支援を実施していくので、各市町村の皆様にも引き続き御支援をいただきたい。また、これまでの御支援に対して感謝を申し上げたい。
- ・ 仲田市長（三木市）からは、防災庁の兵庫県内の設置及び防災関係機関の誘致についての御意見をいただいた。
- ・ 今回の能登半島地震において、国と自治体が連携しながら支援を進める中で、迅速かつ円滑な応急対策、復旧復興における応援・受援自治体と関係省庁とのより一層の連携、さらには一体的対応の必要性を認識したところ。
- ・ 今後発生が予想される南海トラフ地震や首都直下地震など、国難レベルの災害に備えていくためには、国、自治体をはじめ、関係機関等を統括して事前防災から復旧復興までの一連の災害対策をより迅速かつ総合的、そして効果的に行う体制が必要であると考えている。

- ・ 関西広域連合では、平成28年度以降、一連の災害対策を担う専門組織として防災庁の必要性和その創設に向けて継続的に国に提案を行っており、また国内の展示会や防災イベント等を通じ、国民的な機運醸成にも取り組んでいる。
- ・ 阪神・淡路大震災の経験を有する兵庫県には防災に関連する研究機関や国際機関が集積しており、兵庫県をはじめとする関西に防災庁を設置することで、首都直下地震が発生した際に国としての防災機能をバックアップできる、いわゆる双眼構造を確保するよう併せて提案をしている。
- ・ 関西広域連合としての防災力の強化の一環としても、関係府県市や全国知事会などとも密に連携をして、国に対し積極的な提案を行い、防災庁の創設に向けより一層強く取り組んでいきたい。各市町村長の皆様にも、各機会を通じて御支援をいただきたい。

◆ 亀井 鳥取県副知事

- ・ 市町村からの御意見で、「茶筌（生駒市）」や「山田錦（三木市）」等の話が出たが、万博の機会を捉えて、観光地のほかにも各地域にそれぞれの産業や文化があることを知っていただきたい。
- ・ 鳥取県議会では、例えば民芸などをこの機会にもっと知ってもらふべきとの意見も出ている。
- ・ 昨日、万博「いのちの輝きプロジェクト」の8人のプロデューサーの一人である河森正治さんが平井知事と面談した。来県理由は、吉田町長（八頭町）の地元企業が、非常に高性能なコンクリートを生成できることから、そのコンクリートを万博のパビリオンに使うという話になったため。
- ・ このようなエピソードは多々あると思うので、広域的な観光も大切ではあるが、各地域にある産業や文化、技術を知っていただけるように、広域連合や各市町村が合わせて知恵を絞ることも必要だと思っている。

◆ 志田 徳島県副知事

- ・ 広域周遊ルートに関して少しトピックス的なことを申し上げると、7月22日に兵庫県と徳島県で新たな自転車道の整備に係る起工式を行う予定にしている。
- ・ 内容は淡路島の南あわじ市と鳴門市を結ぶ大鳴門橋の下部空間を利用して自転車専用道を整備するもので、これが完成すると、淡路島1周から四国1周の自転車旅行が可能となる。
- ・ サイクリストという分野で言うと、新たな広域周遊ルートのハード面での整備ができる。整備には3年くらいかかるので、大阪・関西万博には間に合わないが、これを活かして、兵庫県とともにサイクリングの環境整備をソフト面でも進めていきたいと考えている。
- ・ 大阪・関西万博に関しては、これを機会に徳島にも足を伸ばしていただきたいので、来年6月には食文化に着目した「食育推進全国大会」、7月には「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」の開催を考えており、広域連合、構成府県市として大阪・関西万博をエリア全体の活性化につなげていきたいと思っているので、御協力をお願いしたい。

○ 澤井 大阪府松原市長

- ・ 現在、私は万博首長連合という全国664の市区町村が参画する会の会長職を仰せつかっている。
- ・ 我々が今一番力を入れている、大きなテーマとして取り組んでいるのが共創である。素晴らしい地域資源は全国津々浦々にあるが、そこを国内外に発信して

いくためには少し情報発信も含めて弱いと感じており、その点を鮮明にしていくために、食や伝統、文化、芸能、工芸、観光等それぞれにある地域資源を活かして、各自治体が広域連携、府県を越えた形での取組を進めているところ。

- ・ 我々の一番の強みは、やはり全国的なネットワークを有することで、そこを活かしてこれからも情報発信や共有していきたいと考えている。今回、関西広域連合からも万博機運醸成につながる良い取組をたくさん紹介いただいたが、大阪関西を除く地域に行くと、まだまだ機運醸成が足りないと感じることも多いため、今後情報共有を深めるとともに、情報発信を強く行い、また我々のこの会も使っていただきたいと思っている。

○ 広瀬 兵庫県養父市長

- ・ 少し悲観的なことを申しあげるが、万博に関して非常に私は大きな期待感を持っていた。これによって京阪神の経済力が高まり、地方創生につながると大きく期待していたが、今はその期待は非常になくなってきている。先ほど話に出たとおり、情報不足の観点もあるかもしれないが、盛り上がり感に非常に欠けている。
- ・ 子供や若い世代が行きたいと思うような分かりやすい情報提供をお願いしたい。いくらいのもの・理念・地域であっても、誰も行かなかったら何もならない。やはり子供や若者がどんどん行って、そこにわくわく感を感じるということが大切だろうと思うので、そういう情報を出していただきたい。
- ・ 広域周遊観光は大切だと思うが、移動手段をどう考えているのか。京阪神中心部は公共交通機関が豊富であるが、我々のところはＪＲも人が乗らなくなってどうしようか、という議論をしているところ。公共交通機関も減少しており、ライドシェアにどんどん取り組んでいるが、これだって十分にできてない、やらせてもらえない。
- ・ 今、山陰線では、私から「交通連合」を立ち上げてみてはどうかと提案した。これ、ＪＲも、路線バスも、タクシーも、ライドシェアも、みんな一緒にしてシームレスな乗り方を、乗り物を作っていこうと考えているが、これらも踏まえてどう周遊観光を図るかということをやらないと、幾ら盛り上がっても人は動かないので、そういうことを考えていただけたらと思っている。
- ・ 能登半島だが、我々もっと力を入れるべきではないかと思う。能登の今の状況を見てみると、過疎が進んでいる地方の未来の姿を鏡に映し出しているように感じる。人も物も機械も全然投入されおらず、公費解体には何年もかかる見込みで、こんなことでは人がいなくなり、やがて消滅していく。
- ・ 関西広域連合もしっかりと、たとえ押しかけて行っても、もっともっと助けるようにすべきではないかと。若者も大人もいなくなっており、ボランティアもほとんどいない。あれでは、元に戻らないと思う。
- ・ 関西広域連合をお願いしておきたいのは、南海・東南海地震など想定される大きな災害において、災害ごとのリスクの客観化と可視化を進め、そのことを住民・市民と共有しておくこと。そういう研究を広域連合でしっかりやっていただけたらと思う。

○ 仲川 奈良県奈良市長

- ・ 観光情報の共有化が非常に重要であり、具体的には、観光案内所の共同運用を提案したいと思う。

- ・ 当市では、大体年間約 1 億円をかけて観光案内所を運営しているが、人力からリモートにどんどん変えようとしている。これからは、それぞれが観光案内所も人を配置するのは難しく、加えてその周辺の観光情報の提供をしていくという機能はどうしても囲い込みにつながり、分散化の妨げにもなるので、リモートによりモニター越しで関西広域の観光情報を一元で提供できる観光案内所の共同運用ができれば、万博のレガシーとしても非常に素晴らしいと思う。
- ・ 観光の休暇の分散化については、みんなが同じ時期に休んで、高い時期に集まるので、結局消費を喚起し切れないという問題が発生する。例えば、ゴールデンウィークは昭和の日から子供の日まで 4 日間休日があるが、奈良県は第一週、大阪府は第二週、滋賀県は第三週として、関西の府県が 1 週間ずつ休暇をずらすようなことを、広域連合が旗を振ってやれば、休暇の分散化により観光資源の逼迫化やピークカットが実現されるのではと思う。
- ・ これは少し暴論かもしれないが、人が少ない時代に関西の中で人手の取り合いになっており、特に、観光関係や飲食業、宿泊業は人手不足で回らない状況になっている。
- ・ 奈良も大阪、兵庫に人を取られたりするが、関西の 2 府 4 県、もしくは広域連合の 2 府 6 県に関して、最低賃金を統一化することはできないのか。例えば、奈良市であれば道 1 本隔てた京都府木津川市に行くと、最低賃金が 9 3 6 円から 1, 0 0 8 円になるので、当然道 1 本渡ってみんな働きに行く。
- ・ 関西の中で人を取り合うのではなく、関西ではどこで働いても同じ処遇が得られるとなれば、いわゆる広域分散型の発展ができると考えるので、何か具体的なチャレンジをぜひ広域連合の方で考えていただければと思っている。

◆ 西脇 副広域連合長

- ・ 澤井市長（松原市）から全体の情報発信が非常に重要だという御意見があった。関西広域連合の枠組みは比較的大きな周遊やインバウンドだが、個別の細かい県境を越えたような情報共有もある中で、どこまで関与すれば効率的なのか考えながら、先ほど説明した 5 0 0 件のコンテンツを収集している事業について、一度整理し、またそれを構成府県市に戻したい。
- ・ 万博後も意識すれば時間もあるので、より情報発信を磨き上げることにについて取り組みたいと思っている。
- ・ 広瀬市長（養父市）については、養父市は私が総合政策局長の時に、地域公共交通活性化再生法の大改正をするにあたり、最もモデルになった、地域公共交通再生の見本みたいな市なので、交通についてはおっしゃるとおり。
- ・ 交通の場合は、観光のほかにも通院、通学などいろいろな観点が入ってくるので、観光だけの観点でなかなかできないという意味では、まさにおっしゃったように、普通の日常生活を支える地域公共交通の基盤がある程度あった上で観光するということだと思う。
- ・ 鉄道を観光だけでカバーして維持するのは難しいと思うが、バスとかデマンド交通であればできるとか、そういう分担の上に観光という要素を入れていくのが良いのではと考える。
- ・ 能登半島地震については、公費解体が 4 % っていうのは衝撃的で、東日本大震災のときのほうがペースが速いような気がする。国は、7 月 1 日に能登創造的復興タスクフォースという、自治体も入れて 1 5 0 人ぐらいの現地のスタッフ

を作ったので、あれがまさに危機感の表れかとは思っている。もう少し国が乗り出すべきだという意見については、全く同感である。

- ・ 仲川市長（奈良市）からの観光案内所の共有化に係る御意見については、京都府、京都市の府市協調の一つの象徴的な例として、京都駅にあった京都府と京都市の観光案内所は合体している。両方一緒に提供した方がよい情報もあるし、それはリアルな観光案内所だけなのか、ネットなども含めて情報発信の共有化ということだと思う。
- ・ 休暇時期の分散化について、このような意見があるのは承知しているが、これは観光だけではなく、もっと他のいろいろな、教育や日常生活に関わってくるところなので課題は多いと考えているが、課題として認識はしている。
- ・ 人手不足については、あらゆる職種について現場の担い手がいないうちでどうするかという大きな問題だと考える。
- ・ 実は、京都府も木津川市に住みながら奈良県内で働く人たちが非常に多く、持ちつ持たれつの関係になっていると思うので、観光という観点だけではなく、関西広域連合としての雇用、全体の担い手をどう支えていくのかという観点から議論すべきかと考える。

令和6年7月18日 市町村との意見交換会 出席者名簿

(関西広域連合)

広域連合長	三日月	大造	(滋賀県知事)
副広域連合長	西脇	隆俊	(京都府知事)
副委員	渡邊	繁樹	(大阪府副知事)
副委員	亀井	一賀	(鳥取県副知事)
副委員	志田	敏郎	(徳島県副知事)
副委員	小原	一徳	(神戸市副市長)
	池田	頼昭	(兵庫県防災監)
	川上	孝範	(奈良県知事公室長)
	前	昌治	(和歌山県企画部長)

(近畿市長会)

会 長	澤井	宏文	(大阪府松原市長)
副会長	仲川	げん	(奈良県奈良市長)
副会長	広瀬	栄	(兵庫県養父市長)
理 事	鴨田	秋津	(京都府舞鶴市長)
理 事	山本	優真	(大阪府泉南市長)
理 事	阿古	和彦	(奈良県葛城市長)
理 事	神出	政巳	(和歌山県海南市長)
理 事	仲田	一彦	(兵庫県三木市長)
相談役	小紫	雅史	(奈良県生駒市長)

(近畿府県町村会)

滋賀県町村会	会 長	伊藤	定勉	(滋賀県豊郷町長)
大阪府町村長会	副会長	森田	昌吾	(大阪府河南町長)
兵庫県町村会	会 長	庵途	典章	(兵庫県佐用町長)
奈良県町村会	会 長	西本	安博	(奈良県安堵町長)
和歌山県町村会	会 長	岡本	章	(和歌山県九度山町長)

(鳥取県町村会)

鳥取県町村会	会 長	吉田	英人	(鳥取県八頭町長)
--------	-----	----	----	-----------